

一隅を照らそう
4月号

387号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



「準西国稲毛三十三所観音霊場札所」

観音霊場ご開帳

住職 中島 有淳

本年四月、十二年に一度の観音さまのご開帳がやってきます。この霊場の歴史は古く、今回の御開帳で二十三回目となり、二百七十二年を迎えます。四月十八日(土)〜五月二日(土)迄。

由縁はその昔、近隣に住まいしていた山田平七翁の発願であります。自身の当病平癒のため西国や秩父の観音霊場を巡った翁は、やがて病重くなり、巡拝ができなくなりました。そこで「近隣に三十三体の観音さまを導き給え」と、地元の熊野権現に祈願したというのです。こうして、當山の境外地仏堂・神木観音堂は、この霊場会の二十八番札所となりました。

観音堂はここより東南約一キロの所にあり、そこはもともと土地の素封家、山根家で祀っておられました。明治になって当院に移管されました。

往時の観音堂は、朝に夕に霧が生まれ、夏には辺りの田の螢火は手で払い落とせるほどであり、冬の原の晴雪は輝りかがやいていたといえます。まさに郷土川崎を思わせる原風景です。当時はお参りもない小さな民家のお堂でしたが、平成十年に再建をし、現在では毎月十八日に「観音経」をご信徒の皆さまとお唱えしております。

移り変わりの激しい現代、郷土の素材で・質素な日本の文化は、今では貴重で、心暖まるものです。全国には、地図にもない小さな堂宇が沢山あります。誰にも気に掛けられていないような祠でも、そっと花が供えられていたりします。それらは永い間、そこに住む人々によって承継がれてきました。巡拝の先々でそうした方々の縁に触れられるのは、自分自身を見つめ直すにも、楽しい時間といえます。

ご信徒のAさんは前回の巡拝に参加し、あるお寺でお茶をご馳走になりました。そしてそこに上着を忘れてしまい、あわてて取りに戻ると、脱ぎっぱなしにした上着がきちんと畳まれてありました。お礼を言うと、係の人が当然のように「観音さんが忘れていかれたものですから」と言われ、しびれるほどに感銘を受けたと言います。それから十二年が経ちました。

人は、生きていくのが辛いとき、生きにくいと感じるときは大抵、大事なことを忘れていたりするときであります。そんなときこのような素朴な札所を巡ってみると、意外な発見があるかもしれません。バスツアーも用意しました。ご参加ください。

*この記事は十二年前の「神木山報」を加筆し、再録しました。

◎ご開帳記念

・バスツアー

四月二十二日(水)

二十四日(金)

各日一万三千元

・特別御朱印 五百円

・のぼり旗 五千円

・紅白特別札 五千円

・他、参拝記念品あり

*他最新情報はSNSで随時



折りふしのはな

青木の花

青木の花が咲き
へエこれが冬に
あの赤い実をつける
アオキの花なの！

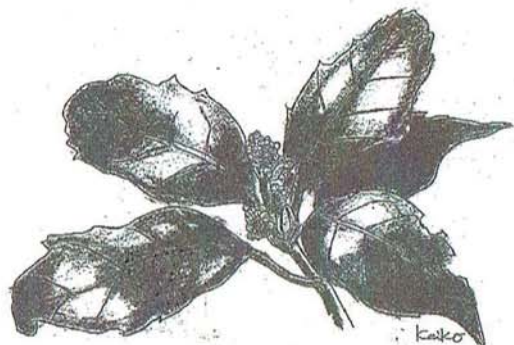
新芽は食べられると聞き
早速

天ぷらにしてみました
想像していたほど

苦みもなく
何となく

早春の味でした

(遊)



月例行事案内

◎八日 午後二時

薬師如来祈祷会・花まつり

◎十二日 午後二時

智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

◎十八日 午後二時

観音経読誦法要(於・神木観音堂)

◎四月二十八日 午後二時

祈願成就 七難即滅 七福即生

大般若経転読大護摩

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

それぞれの行事で
御札を授与いたします
郵送も受付ております

4/11(土) 月例(※要事前申込)
「止観(坐禅)会」9:30-10:30(¥500)

○花まつり奉納演奏

お釈迦さまのお誕生日(花まつり)にあわせてインド音楽が奉納されます。

シタール/田中悠宇吾 タブラ/宮木修平

日時: 4月8日(水)14時法要のち15時頃〜
費用: 無料(投げ銭歓迎)

○花説法 11時~15分程

つつじの満開時期、毎回異なるテーマで法話を。聴聞歓迎。

4月17(金)、18(土)、19(日)、21(火)、
23(木)、25(土)、26(日)。雨天翌日。

<特報>『旅する不動明王』完成!

当山の信仰を描いたドキュメンタリー映画『旅する不動明王』がついに完成。5/28(木)護摩の後に完成披露上映会を。(※要事前申込/信徒無料、一般1,000円)

あともがま



○四月は當山のつつじの花咲くシーズンです。誰がために花は咲くかとよく使いますが、実際有り難く思います。

○言うことと、することがチグハグな米トラUMP大統領は、まるで「裸の王様」のようです。高市首相や政府関係者も訪米で相当神経を使ったことでしょう。それにしても早く、紛争が終結してもらいたいと世界中で願っています。被災は一般人にも及びその代償はあまりにも大きいのです。

○大相撲は久し振りに霧島の優勝。再大関が確実に。話題の安青錦は負け越して、大関カド番に。厳しい世界です。

○境内に「ウグイス」が鳴き始めました。風情があつて、実に嬉しい気分で聞き惚れます。

山椒をつかみ込んだるこなべかな

一茶